



第5回 アメリカンフットボール世界選手権
2015 アメリカ大会

報告書



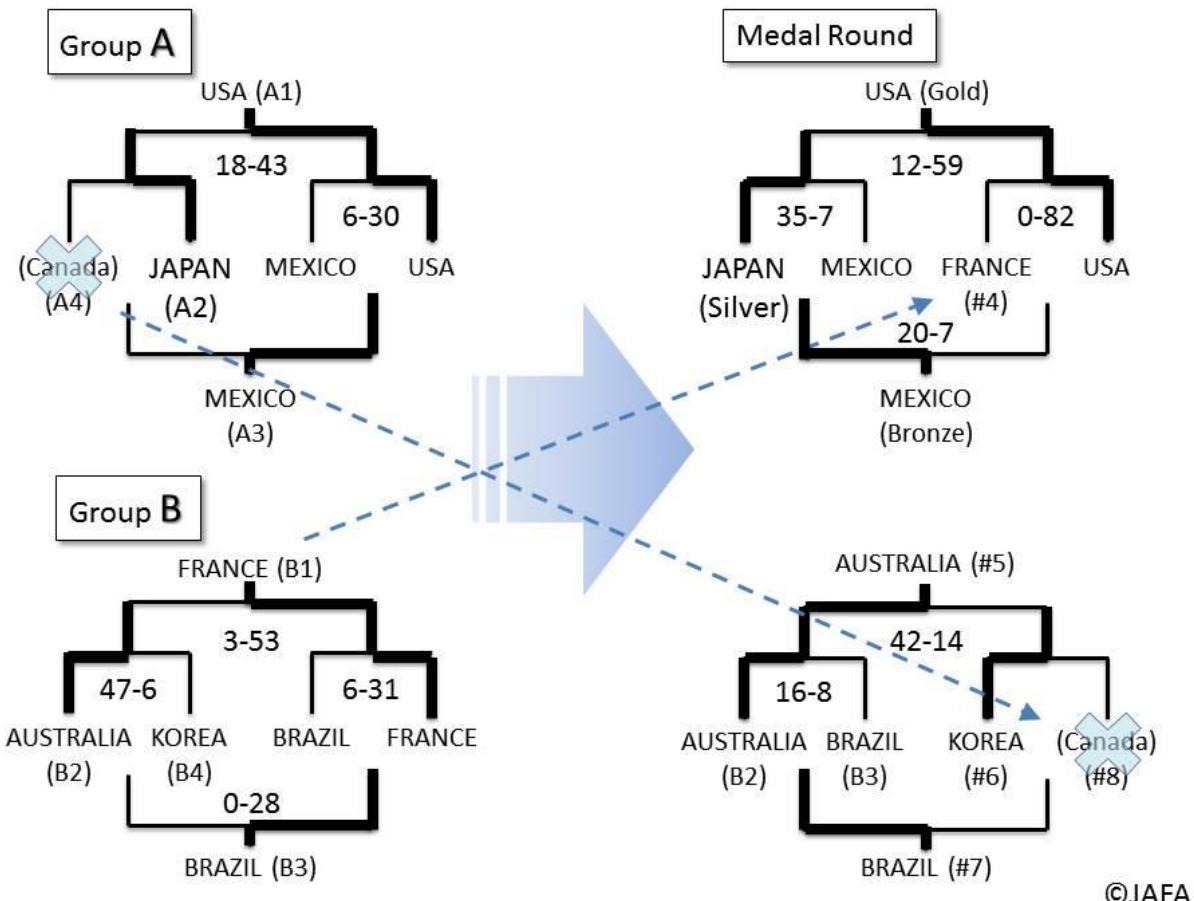
公益社団法人
日本アメリカンフットボール協会

第5回 アメリカンフットボール世界選手権大会 (報告)

国際アメリカンフットボール連盟(IFAF: International Federation of American Football)が主催する「第5回世界選手権大会」は、2015年7月8日(水)～18日(土)、アメリカ合衆国オハイオ州、キャントンで開催された。

大会には7カ国が参加、上位(A ブロック)・下位(B ブロック)ブロックに分かれ、トーナメントを行い各ブロックの順位を決定させる。A ブロック 4 位を下位ブロックへ降格、B ブロック 1 位を上位ブロックへ昇格させ、再びブロック内でトーナメントを行い 1～8 位を決定する方式をとった。

世界ランク 2 位カナダが欠場したことにより、カナダとの対戦国は全て不戦勝となった。



■予選ラウンド

【A ブロック(上位ブロック)】

世界ランク 1 位アメリカが、同 4 位のメキシコを 30-6、同 3 位の日本を 43-18 で破り、A ブロック 1 位となり、メキシコを 35-7 破った日本が 2 位、メキシコが 3 位、欠場のカナダが 4 位となり、B ブロック降格となった。

【B ブロック(下位ブロック)】

世界ランク 5 位のフランスが同 8 位のブラジル、同 6 位のオーストラリアを破り B ブロック首位となり、A ブロックへと昇格。以下 2 位はオーストラリア、ブラジル、韓国と続いた。

■順位決定戦

【A ブロック】

暫定 1 位のアメリカが同 4 位フランスを 82-0 と大差で退ける。同 2 位の日本は同 3 位のメキシコに 35-7 で完勝し、決勝戦は。再びアメリカと日本との対戦となる。

決勝戦はアメリカが自力を見せつけ 59-12 と日本を退け金メダルを獲得、敗れた日本は銀メダルとなった。メキシコはフランスを 20-7 で破り銅メダルを獲得、フランスは 4 位となった。

【B ブロック】

オーストラリアが 16-8 とブラジルを破り、5 位決定戦に駒を進めた。

5 位決定戦はオーストラリアが、カナダに不戦勝の韓国に 42-12 で完勝。カナダに不戦勝のブラジルが 7 位となつた。

【最終順位】

優勝: アメリカ、 準優勝: 日本、3 位: メキシコ、4 位: フランス、5 位: オーストラリア、6 位: 韓国、7 位: ブラジル、8 位: カナダ

■試合結果

◇7月9日(木) [Day1]

Game1 [12:00] オーストラリア 47-6 韓国

Game2 [15:30] フランス 31-6 ブラジル

Game3 [19:00] アメリカ 30-6 メキシコ

日本 (不戦勝)

◇7月12日(日) [Day2]

Game4 [12:00] 韓国 0-28 ブラジル

Game5 [15:30] オーストラリア 3-53 フランス

Game6 [19:00] アメリカ 43-18 日本

メキシコ(不戦勝)

※【グループ A】カナダは【グループ B】1 位へ降格、【グループ B】全勝フランスは【グループ A】4 位へ昇格し、それぞれのグループでトーナメント戦へ。

◇7月15日(水) [Day3]

Game7 [12:00] オーストラリア 16-8 ブラジル

Game8 [15:30] メキシコ 7-35 日本

Game9 [19:00] フランス 0-82 アメリカ

韓国(不戦勝)

◇7月18日(土) [Day4]

7 位決定戦 ブラジル(不戦勝)

5 位決定戦 [12:00] 韓国 14-42 オーストラリア

3 位決定戦 [15:30] メキシコ 20-7 フランス

決勝戦 [19:00] 日本 12-59 アメリカ

【日本代表チームの試合結果】

■第1試合(7月9日)

対カナダ 不戦勝

■第2試合(7月12日)

Aブロック 2回戦	1Q	2Q	3Q	4Q	Total
日本代表	0	3	7	8	18
アメリカ代表	8	3	14	18	43

■第3試合(7月15日)

Aブロック順位決定戦	1Q	2Q	3Q	4Q	Total
日本代表	14	7	0	14	35
メキシコ代表	0	0	7	0	7

■第4試合(7月18日)

Aブロック 優勝戦	1Q	2Q	3Q	4Q	Total
日本代表	0	6	6	0	12
アメリカ代表	16	22	7	14	59

日本代表 森 清之ヘッドコーチ(LIXIL ディアーズ) (今大会を振り返って)

アメリカと2回やってこのスコアだから完敗だったと思います。選手はよくやってくれたし、これが今の現実だと思います。まだまだアメリカの壁は高い。

勝てるチャンスはあったかと言うと、そうでもない。今まで同じ土俵で勝負するのは難しいかもしれない。今回感じたのは、バックフィールドのフィジカルの差です。ラインはほぼ思っていた通りに戦えたけど、それ以外のポジションで思うように戦えなかった。ランニングバック対ラインバッカーであったり、ランニングバック対ディフェンスバックのように、タックルの強さやフィジカルの強さでこれだけ差があると、試合を作るのは難しいです。今のレベルで、通用する部分が一つ二つあっても、勝機を見出すのは厳しいです

全体では選手、コーチ、トレーナー、マネージャーは非常に良くやってくれた。チームの水準は非常に高かったし、力を出せた。レベルが高かったメキシコには完勝したので、力を出せなかつたわけではない。ただ、アメリカとはその力の差があった」と大会を総括した。

日本代表 主将 WR 木下 典明 (オービックシーガルズ) (今大会を振り返って)

得点差だけを見ればアメリカ代表との力の差を感じます。具体的には、フットボールの根本的な部分です。フィジカル面であったり、普通のパスをキャッチボールのように捕っていた。



GAME REPORT

【第2試合】

—日本代表が2TD 奪うも米国代表に敗戦—

現地時間7月12日(日)※日本時間13日(月)、アメリカ合衆国オハイオ州キャントンのトム・ベンソン・ホール・オブ・フェイム・スタジアムで開催されている『第5回 IFAF アメリカンフットボール 世界選手権アメリカ大会』が行われ、日本代表がアメリカ代表と対戦。2タッチダウンを奪うも18対43で敗戦。この結果、7月15日(水)15時30分(予定)からメキシコ代表と対戦することになりました。

なお、この試合の日本代表ゲームMVPには、パス49回中28回成功で273ヤード、1TD、2INTを記録したQB 加藤 翔平(LIXILディアーズ)が受賞しました。

現地時間 7月12日(日) 19時00分キックオフ	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
日本代表	0	3	7	8	18
アメリカ代表	8	3	14	18	43

ゲームサマリー

日本のレシーブで始まったこの日の試合。いきなりQB 加藤からWR 栗原 嵩(IBMビッグブルー)へ10ヤードのパスが決まり、ファーストダウン獲得。しかし、その直後の自陣30ヤードからのプレイで、RB 古谷拓也が5ヤード走るもファンブルロスト。いきなり、攻撃権を喪失してしまう。このピンチにゴール前12ヤードまで攻め込まれると、3回連続のラン攻撃で先制のタッチダウンを許す。さらに、2点コンバージョンも成功され0対8とされてしまう。

その次の攻撃では、QB 加藤が、林 雄太(アサヒビールシルバースター)、宮本 康弘(LIXILディアーズ)、木下 典明(オービックシーガルズ)、前田 直輝(LIXILディアーズ)のレシーバー陣へ投げ分け、4回連続でパス成功。敵陣44ヤードまで攻め込むも、パントに終わってしまう。

しかし、次のアメリカの攻撃でDB 藤本 将司(オービックシーガルズ)が相手QBのパスをインターセプト。16ヤードリターンして、敵陣40ヤードまで持ち込む。この好機にスリーアンドアウトに終わった日本だが、直後のアメリカの攻撃をパントに抑え込む。ここで攻撃権を得た日本は、敵陣41ヤードからドライブして28ヤードまで攻め込むが、K 佐伯 真太郎(パナソニックインパルス)が45ヤードのフィールドゴールを右に外してしまい、追い上げならず。

次のアメリカの攻撃では、自陣47ヤードまで攻め込まれるも、今度はDB 辻 篤志(パナソニックインパルス)がインターセプトして攻撃権奪取した日本。このチャンスに、QB 加藤からWR 前田へ39ヤードのパスが通るなどアメリカ陣19ヤードまで攻め込む。ここで、K 佐伯が36ヤードのフィールドゴールをしっかりと沈め、3対8とする。

勢いに乗る日本は、アメリカのパスを中心とした攻撃で自陣12ヤードまで攻め込まれるが、サードダウン8ヤードで相手のパスが不成功に終わると、29ヤードのフィールドゴールをDB 砂川 敬三郎(オービックシーガルズ)がブ

ロック。アメリカに追加点を許さない。攻撃権を得た日本は、QB 加藤のパスや RB 高木 稜(IBM ビッグブルー)の 24 ヤードランなどで敵陣 33 ヤードまで進むもパントに抑えられ追加点を奪えない。前半終了間際にフィールドゴールを許し、3 対 11 と 8 点ビハインド前半を折り返す。

後半に入ると、前半 65 ヤードに抑えていたアメリカのラン攻撃に手を焼く。第 3Q 開始直後のドライブで 60 ヤードのタッチダウンランを許し点差を広げられると、第 3Q 残り 7 分 49 秒に敵陣 48 ヤードから始まったドライブでも 4 ヤードタッチダウンランを許し、3 対 25 とリードを広げられてしまう。

それでも日本は、第 3Q 残り 6 分 8 秒、自陣 38 ヤードから始まった攻撃では、QB 加藤が WR 木下へ 22 ヤードの、WR 前田へも 14 ヤードのパスを通すなどレッドゾーン内に侵入。すると、相手の反則を立て続けに誘い、ゴール前 1 ヤードへ。2 つのランを挟み、最後は RB 古谷から攻撃に参加していた DL 紀平 充則(無所属)へのタッチダウンパスが通り、10 対 25 と反撃の狼煙を上げる。

さらに日本は、敵陣 39 ヤード付近で DB 藤本がこの日自身 2 つ目のインターベプトを記録。一気にワンポゼッション差に迫る機運が高まる。しかし、敵陣 23 ヤードからのフォースダウンギャンブルに失敗。すると、その直後のドライブでは、ランプレイを中心に自陣まで進まれ、最後は 7 ヤードタッチダウンを許すとツーポイントコンバージョンも成功され 10 対 33 と引き離されてしまう。

その後フィールドゴールを許して、10 対 36 とされた日本は、QB 加藤のパスがインターベプトされると、43 ヤードのタッチダウンパスを通され、10 対 43 とさらに点差を広げられる。それでも勝負を諦めない日本は、試合時間残り 2 分 23 秒、自陣 32 ヤードからのドライブをスタートさせると、QB 加藤が WR 宜本 潤平(富士通フロンティアーズ)へ 13 ヤード、9 ヤード、31 ヤードと立て続けにパスを成功。最後は、WR 林へ 25 ヤードのタッチダウンパス。さらにツーポイントコンバージョンも決めて 18 対 43 とする。

勝負を捨てない日本は、K 佐伯が絶妙のオンサイドキック。うまい具合にボールが跳ね上がり、これをサイドライン際の WR 栗原がリカバーする。残り時間 59 秒、攻撃権を得た日本だったが、QB 加藤のパスがインターベプトされ万事休した。

■アメリカ戦後の主な日本代表コーチ、選手のコメント

日本代表 森 清之監督(LIXIL ディアーズ)

結果は残念でした。前半にチャンスはありましたが、ものにすることができますませんでした。次戦にベストを尽くします。決勝でアメリカともう一度戦いです。

日本代表 QB 加藤 翔平(LIXIL ディアーズ)

(複数のレシーバーに投げ分けたことについて)レシーバーはみんな能力が高いので、どのレシーバーに投げてもパスが決まるというのは練習から分かっていました。別に意識しているわけではなく、プレイによって空いているところにパスを投げ分けた結果です。

日本代表 DB 藤本 将司(オービックシーガルズ)

(アメリカの印象について)パスに関して言えばレシーバーのスピードに追いつけますが、ランニングバックの強さの面で日本人にはないものを持っているので、全員が集まって止めるしかないと私は思います。

(2INTについて)インターセプトしてもチームが勝たないと意味がないので、次のメキシコ戦に向けてチームの勝利に貢献するようなプレイをしたいです。アメリカと再戦して勝ちたいので、もう一度チームを立て直したいと思います。

日本代表 RB 高木 穂(IBM ビッグブルー)

(アメリカの印象について)メキシコ戦を見て相当強いしフィジカル面、特にラインバッカーなどは相当大きくてスピードもあると思っていました。実際に戦ってみるとランに関して言えば、ブロッカーがしっかりしてくれたこともあります、驚くほどではなく通用する部分もかなりあるかと感じました。(自身の身長が)小さいので、うまくはまつたと思いました。

■主なスタッツ

得点経過				
1st	09:12	USA	0-8 S.Foster 2yd run (T.Steelman pass from K.Burke)	
2nd	08:29	JPN	3-8 佐伯眞太郎 36yd Field Goal	
	00:00	USA	3-11 E.Ruhnke 21yd Field Goal	
3rd	10:35	USA	3-17 S.Foster 60yd run (E.Brun rush failed)	
	06:15	USA	3-25 A.Wimberly 4yd run (T.Steelman pass from K.Burke)	
	01:37	JPN	10-25 紀平充則 1 yd pass from 古谷拓也(佐伯眞太郎 kick)	
4th	08:11	USA	10-33 D.Favre 7 yd run (K.Burke rush)	
	04:22	USA	10-36 E.Ruhnke 33yd Field Goal	
	02:27	USA	10-43 B.Smithey 43yd pass from K.Burke (E.Ruhnke kick)	
	01:09	JPN	18-43 林 雄太 25yd pass from 加藤翔平(林 雄太 pass from 加藤翔平)	

日本	チーム成績	アメリカ
302	オフェンス総獲得ヤード数	580
274	パス総獲得ヤード数	353
28	ラン総獲得ヤード数	227
16	ファーストダウン回数	27
4-36	ペナルティ回数—喪失ヤード数	12-71
※23:57	ボール支配時間	※23:13

日本 主な個人成績					
選手名	パス成功／回	獲得ヤード	TD	インターフレット	被サック
加藤 翔平 (LIXIL)	28/49	273	1	2	2
選手名	ラン回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
高木 稜 (IBM)	5	37	0	7.4	24
古谷 拓也 (オービック)	4	8	0	2.0	5
選手名	レシーブ回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
前田 直輝 (LIXIL)	5	61	0	12.2	39
林 雄太 (アサヒビール)	5	53	1	10.6	25
宜本 潤平 (富士通)	4	63	0	15.7	31
木下 典明 (オービック)	4	39	0	9.7	22
永川 勝也 (LIXIL)	3	18	0	6.0	7
選手名	タックル数	サック数	ロスタックル	インターフレット	
藤田 篤 (富士通)	7.5	0	0	0	
三宅 剛司 (オービック)	5.5	0	0	0	
天谷 謙介 (LIXIL)	5.0	0	0	0	
辻 篤士 (パナソニック)	4.5	0	0	1	

※主催者発表



〈左上〉
5回のキャリー、リーディングラッシャーになった、RB 高木 (IBM)

〈上〉この日 2 本のインターベプトを記録した DB 藤本 (オービック)

〈左〉

世界で唯一、5 大会連続出場を果たす DL 脇坂 (パナソニック)

〈下〉

この試合の MVP に選出された、QB 加藤 (LIXIL)、右は片山和之在デトロイト日本国総領事





GAME REPORT

【第3試合】

—日本代表が5TD奪いメキシコに快勝 決勝戦へ—

現地時間 7月 15 日(水)※日本時間 16 日(木)、アメリカ合衆国オハイオ州キャントンのトム・ベンソン・ホール・オブ・フェイム・スタジアムで開催されている『第5回 IFAF アメリカンフットボール 世界選手権アメリカ大会』が行われ、日本代表がメキシコ代表と対戦。攻撃陣が5タッチダウンを奪う活躍で、35対7の勝利。この結果、7月18日(土)19時(予定)から行われる決勝戦に進むことが決まりました。決勝の対戦相手は、フランスを大差で破ったアメリカとなります。

なお、この試合のゲームMVPには、パス24回中17回成功で223ヤード、3TDを記録したQB高田 鉄男(パナソニックインパルス)が受賞しました。

現地時間 7月 15 日(水) 15時30分キックオフ	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
日本代表	14	7	0	14	35
メキシコ代表	0	0	7	0	7

ゲームサマリー

日本がレシーブを選択して始まったこの日の試合。いきなりリターナーのWR木下 典明(オービックシーガルズ)がキックオフリターンでファンブルするも味方がリカバーして事なきを得る。これで得たチャンスに、QB高田 鉄男(パナソニックインパルス)がWR栗原 崇(IBMビッグブルー)へパスが成功。WR栗原は相手のタックルをかわすと、そのままエンドゾーンまで運ぶ70ヤードのタッチダウン。日本が率先良くリードを奪う。

さらに日本は第1Q残り1分29秒、ファンブルリカバーで得た攻撃権をQB高田から再びWR栗原への10ヤードタッチダウンパスへつなげ、14対0とする。第2Qに入りてもメキシコオフェンスをパントに抑えて守備陣が奮闘する日本。前半残り4分48秒、自陣20ヤードから始まったドライブで、QB高田からWR木下典明(オービックシーガルズ)へ38ヤード、15ヤードのパスが決まるなど徐々に敵陣へ侵入。すると、最後はQB高田からWR前田直輝(LIXILディアーズ)へ17ヤードのタッチダウンパスがヒットし、前半を21対0で折り返す。

第3Qにタッチダウンを許して、21対7と追い上げられた日本。攻撃陣も得点を上げられなかつたが、同残り59秒にDB三宅剛司(オービックシーガルズ)が相手のパスをインターセプト。試合の流れを引き戻す。日本は自陣45ヤードから始まったこのチャンスに、ラン攻撃を軸にじわじわと敵陣へ前進。最後は、RB高木稜(IBMビッグブルー)がゴール前1ヤードでエンドゾーンへ飛び込み、28対7とリードを広げる。

その後も日本は、LB 天谷謙介(LIXIL ディアーズ)とDB 三宅のインターフレットが決まり、メキシコに得点を許さず。逆に第 4Q 残り 1 分 57 秒、RB 李卓(慶應義塾大学)の 2 タッチダウンランでとどめを刺した。

■メキシコ戦後の主な日本代表コーチ、選手のコメント

日本代表 森 清之監督(LIXIL ディアーズ)

選手、コーチ、マネージャーのスタッフ全員が素晴らしい仕事をしてくれました。最初のキックオフリターンのファンブルでオフェンスラインがリカバーできたのが大きかったです。彼らをとても誇りに思います。オフェンスのゲームプランは高い確率で遂行できました。

(決勝戦について)プロフトボール発祥の地で日本のフトボールを見せる機会はあまりないので、日本のフトボールを見せたいです。1 戰目のアメリカ戦で選手たちは本当に良くやってくれたので、その頑張りを生かせるようにコーチがバックアップして、選手たちに思う存分戦ってほしいと思います。

日本代表 QB 高田 鉄男(パナソニックインパルス)

(決勝進出について)必ず勝ちにこだわって、全力を尽くしたいと思います。

日本代表 DL 脇坂 康生(パナソニックインパルス)

(自身 4 回目の決勝進出について)日本のフトボールのレベルを世界に知らしめたいとずっと思っていました。31 年間フトボールをやって来てアメリカに近づき追い越したいと思ってプレイをしていました。今回が最後のチャンスなので、その思いを何とか晴らしたいです。全力を尽くす覚悟でいます。

日本代表 WR 栗原 崇(IBM ビッグブルー)

(メキシコ戦を振り返って)アメリカに比べたらタックルの迫力もパワーも技術も劣っていたので、オフェンスがしつかり点を取っていけばこういう展開になるとスタートから思いました。

(70 ヤードタッチダウンキャッチについて)久々にあれだけ走りました。次戦に向けて良いイメージができたので、今日の試合は個人的には良かったと思います。

日本代表 DB 三宅 剛司(オービックシーガルズ)

アメリカ戦でボールを取るチャンスがあったけど取れなかつたので、メキシコ戦ではインターフレットをすることを目標に掲げていました。その目標が達成できたのは良かったです。(2INT については)率直にうれしいです。

日本代表 WR 前田 直輝(LIXIL ディアーズ)

(メキシコは)体が大きいので、日本人よりヒットが強いし思い切りも良かったのでそこを警戒していました。それでも僕らのほうがプレイの精度や精密さの部分で勝っていたところもあったので、そこでうまく勝負できた展開になって良かったです。

(TD キャッチの感想)向こうが追いかけてきそうな中でタッチダウンを取れたのは良かったです。

■主なスタッツ

得点経過				
1st	09:12	USA	0-8 S.Foster 2yd run (T.Steelman pass from K.Burke)	
2nd	08:29	JPN	3-8 佐伯眞太郎 36yd Field Goal	
	00:00	USA	3-11 E.Ruhnke 21yd Field Goal	
3rd	10:35	USA	3-17 S.Foster 60yd run (E.Brun rush failed)	
	06:15	USA	3-25 A.Wimberly 4yd run (T.Steelman pass from K.Burke)	
	01:37	JPN	10-25 紀平充則 1 yd pass from 古谷拓也(佐伯眞太郎 kick)	
4th	08:11	USA	10-33 D.Favre 7 yd run (K.Burke rush)	
	04:22	USA	10-36 E.Ruhnke 33yd Field Goal	
	02:27	USA	10-43 B.Smithey 43yd pass from K.Burke (E.Ruhnke kick)	
	01:09	JPN	18-43 林 雄太 25yd pass from 加藤翔平(林 雄太 pass from 加藤翔平)	

日本	チーム成績	アメリカ
302	オフェンス総獲得ヤード数	580
274	パス総獲得ヤード数	353
28	ラン総獲得ヤード数	227
16	ファーストダウン回数	27
4-36	ペナルティ回数—喪失ヤード数	12-71
※23:57	ボール支配時間	※23:13

日本 主な個人成績					
選手名	パス成功／回	獲得ヤード	TD	インターフレット	被サック
加藤 翔平 (LIXIL)	28/49	273	1	2	2
選手名	ラン回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
高木 稜 (IBM)	5	37	0	7.4	24
古谷 拓也 (オービック)	4	8	0	2.0	5
選手名	レシーブ回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
前田 直輝 (LIXIL)	5	61	0	12.2	39
林 雄太 (アサヒビール)	5	53	1	10.6	25
宜本 潤平 (富士通)	4	63	0	15.7	31
木下 典明 (オービック)	4	39	0	9.7	22
永川 勝也 (LIXIL)	3	18	0	6.0	7
選手名	タックル数	サック数	ロスタックル	インターフレット	
藤田 篤 (富士通)	7.5	0	0	0	
三宅 剛司 (オービック)	5.5	0	0	0	
天谷 謙介 (LIXIL)	5.0	0	0	0	
辻 篤士 (パナソニック)	4.5	0	0	1	

※主催者発

■主なスタッツ

得点経過					
1st	10:42	JPN	7-0 栗原 嵩 70yd pass from 高田鉄男 (佐伯眞太郎 kick)		
	01:29	JPN	14-0 栗原 嵩 10yd pass from 高田鉄男 (佐伯眞太郎 kick)		
2nd	02:43	JPN	21-0 前田直輝 17yd pass from 高田鉄男 (佐伯眞太郎 kick)		
3rd	03:27	MEX	21-7 San Roman 10yd pass from Arroyo (Diez kick)		
4th	07:57	JPN	28-7 高木 稜 1yd run (佐伯眞太郎 kick)		
	01:57	JPN	35-7 李 卓 2yd run (佐伯眞太郎 kick)		

日本	チーム成績	メキシコ
309	オフェンス総獲得ヤード数	328
223	パス総獲得ヤード数	195
86	ラン総獲得ヤード数	133
16	ファーストダウン回数	18
3-51	ペナルティ回数—喪失ヤード数	12-91
23:43	ボール支配時間	24:17

日本 主な個人成績

選手名	パス成功／回	獲得ヤード	TD	インターベント	被サック
高田鉄男 (パナソニック)	17/24	223	3	0	1
選手名	ラン回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
李 卓 (慶應義塾大学)	7	31	1	4.4	15
高木 稜 (IBM)	9	26	1	2.8	10
選手名	レシーブ回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
栗原 嵩 (IBM)	4	87	2	21.7	70
木下 典明 (オービック)	3	54	0	18.0	38
前田 直輝 (LIXIL)	3	39	1	13.0	17
遠藤 昇馬	3	-1	0	-0.3	11
李 卓 (慶應義塾大学)	2	18	0	9.0	14
選手名	タックル数	サック数	ロスタックル	インターベント	
天谷 謙介 (LIXIL)	6.0	0	0	1	
高橋 伶太 (富士通)	5.0	1	1	0	
平澤 徹 (LIXIL)	4.5	1	2	0	
砂川 敬三郎 (オービック)	4.0	0	0	1	
竹内修平 (富士通)	4.0	0	0	0	
李 卓 (慶應義塾大学)	4.0	0	0	0	



〈上〉

試合開始直後、WR 栗原 (IBM) の 70 y TD パスキャッチ
〈左〉

2Q、メキシコを引き離す 17 y TD パスキャッチを決めた、
WR 前田 (LIXIL)

〈左下〉

2Q、38 y を獲得するパスキャッチ。WR 木下典明 (オービ
ック)

〈下〉

パスで 223 y、3TD を演出した QB 高田鉄男が MVP に選出
された。左は浅田豊久日本協会会長





GAMERREPORT

【第4試合】

—日本代表がアメリカに完敗 銀メダル獲得で大会終了—

現地時間 7月 18 日(土)※日本時間 19 日(日)、アメリカ合衆国オハイオ州キャントンのトム・ベンソン・ホール・オブ・フェイム・スタジアムで開催されている『第5回 IFAF アメリカンフットボール 世界選手権アメリカ大会』が行われ、日本代表がアメリカ代表と対戦。攻守で 2 タッチダウンを奪うも、12 対 59 で敗れました。この日で大会全日程が終了し、最終成績は 1 位アメリカ、2 位日本、3 位メキシコ、4 位フランス、5 位オーストラリア、6 位韓国、7 位ブラジルとなりました。

なお、この試合のゲーム MVP には、パス 22 回中 12 回成功で 141 ヤード、1 タッチダウン、1 インターセプトを記録した QB 加藤 翔平(LIXIL ディアーズ)が選出されました。QB 加藤は、12 日に行われたアメリカ戦に続き 2 度目の受賞となります。

現地時間 7月 18 日(土) 19 時 00 分キックオフ	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
日本代表	0	6	6	0	12
アメリカ代表	16	22	7	14	59

ゲームサマリー

日本がコイントスに勝って、レシーブを選択してスタートしたこの日の試合。日本は自陣 20 ヤードからのファーストドライブで、QB 加藤 翔平(LIXIL ディアーズ)がパスを 3 連続で成功させファーストダウン更新。さらに RB 高木 稜(IBM ビッグブルー)の 11 ヤードラン、QB 加藤から WR 前田直輝(LIXIL ディアーズ)への 14 ヤードパスも決まり、敵陣 38 ヤードまで攻め込む。しかし、RB 古谷 拓也(オービックシーガルズ)のランが 2 ヤードロスした後のセカンドダウン 12 ヤードで、QB 加藤のパスがインターセプトされ、そのまま 70 ヤードのインターセプトリターンタッチダウンを許してしまう。2 点コンバージョンも決められ、日本はいきなり 8 点のビハインドを背負う。

その後のドライブはスリーアンドアウトに抑えられるが、その直後の守備ではゴール前 1 ヤードまで攻められるも、相手のフォースダウンギャンブルを阻止。追加点を許さない。日本は次の攻撃もスリーアンドアウトに終わると、アメリカのランを軸とした攻撃を止められず再び失点して、0 対 16 とされてしまった。

日本は第 2Q に入っても、残り 7 分 47 秒にタッチダウンを許し、0 対 24 とリードを広げられた。さらに、第 2Q から変わった QB 高田 鉄男(パナソニックインパルス)が自陣 46 ヤード、サードダウン 1 ヤードのプレーでサックされファンブル。これをリカバーされると、そのままエンドゾーンまで持ち込まれ、0 対 31 とされてしまった。

得点を奪いたい日本は、再び QB 加藤がフィールドへ。QB 加藤は自陣 38 ヤード、サードダウン 1 ヤードの場面で、WR 栗原 崇(IBM ビッグブルー)へパス。WR 栗原は、このボールに飛び込みスーパーイヤツチを披露する。こ

のキャッチで勢いに乗った日本は前半残り2分56秒、QB 加藤が WR 宜本 潤平(富士通フロンティアーズ)へ25ヤードタッチダウンパスをヒット。しかし、ツーポイントを狙うが失敗に終わった。ようやく得点を返した日本だったが、前半終了間際にも失点。6対38で前半を折り返す。

32点を追う日本は第3Q 残り7分29秒、敵陣2ヤードからの相手攻撃で、アメリカのQBをサックしてファンブル誘発。これをDL 富田 祥太(オービックシーガルズ)がエンドゾーン内でリカバーしてタッチダウンとなった。その後の2点コンバージョンは再び失敗に終わり、得点は38対12。しかし、日本はその後の相手ドライブでタッチダウンを奪われ、12対45と点差が開いた。

第4Qに入っても日本は、思うようにボールを進められず。逆にQB 高田のファンブルロスからタッチダウンを決められるなど、2つのタッチダウンで加点された。日本はパス獲得ヤード(225ヤード)で相手(208ヤード)を上回るも、計5サックを許した。守備では、ラン攻撃で205ヤードを許しアメリカの地上戦を自由にさせてしまった。

日本はアメリカに敗れ、第2回ドイツ大会以来12年ぶり3度目の金メダルに手が届かなかった。日本の銀メダルは、第3回川崎大会以来8年ぶり2度目。

■アメリカ戦後の主な日本代表コーチ、選手のコメント

日本代表 森 清之監督(LIXIL ディアーズ)

完敗です。これが今の力だと思います。もう少しやれることはあったかもしれません、勝てるチャンスはあったかと言うと、そうでもない。今のままで同じ土俵で勝負するのは難しいかも知れない。今回感じたのは、バックフィールドのフィジカルの差です。ラインはほぼ思っていた通りに戦えたけど、それ以外のポジションで思うように戦えなかった。ランニングバック対ラインバッカーであったり、ランニングバック対ディフェンスバックのように、タックルの強さやフィジカルの強さでこれだけ差があると、試合を作るのは難しいです。今のレベルで、通用する部分が一つ二つあっても、勝機を見出すのは厳しいです。

日本代表 WR 木下 典明(オービックシーガルズ)

レベルの差があると感じました。勝負所でミスもあったのですが、オフェンスでこれだけ点を取られたのは話にならないです。

日本代表 QB 加藤 翔平(LIXIL ディアーズ)

フィジカルでまだまだ差があると思います。(アメリカと)埋まっているポジションはあると思いますが、これだけ負傷者が出てしまうと、総力戦とはいいつつ厳しい戦いになってしまいます。そこがまだまだ日本に足りない部分だと思います。プレイの精度については準備したものに関しては通用したと思います。

(2度目のゲームMVPについて)QBが勝敗を握るポジションだと思っていますので、MVPに選ばれましたが、2試合とも勝てなかつたのはQBの責任かと感じています。負けた試合のMVPというのは自分自身で意味を感じていない。

日本代表 WR 栗原 崇(IBM ビッグブルー)

(12日の)初戦よりは攻めたプレイもできたので、個人的には良かったです。1対1では勝っていたので、勝負どこ

ろでプレイを通してくれば変わっていたかもしれません。個々の能力だけでなく、チームとしても何かを変えないと、この差はどうい埋まらないと思います。

(第2Qのダイビングキャッチについて)加藤が良いところに投げてくれました。

(オールトーナメント選出について)個人としては、国際舞台で活躍することは自分で決めていたことなので評価してもらったのは嬉しいですが、チームの勝利に貢献できていないので、今後頑張るところだと思います。

日本代表 WR 宜本 潤平(富士通フロンティアーズ)

(アメリカに)対抗できない感じはしなかったです。このレベルなら勝てる相手なので、QBとレシーバーの精度、勝負どころの精度を上げていく必要があると思います。

日本代表 DB 砂川 敬三郎(オービックシーガルズ)

(アメリカは)スピードは日本人にないものを持っているので、日本でもそのレベルをイメージして日々精進するだけです。

(オールトーナメント選出について)初戦のフィールドゴールブロックだけで、自分の中では今大会で何もできない。その悔しさを晴らすために、自分のチームに戻って見つめ直して、次に向けてしっかりやっていきたいと思います。

日本代表 OL 勝山 晃(富士通フロンティアーズ)

OLとしては負けていない部分もあったと思うのですが、それがオフェンスに生きなかったというのはチーム力の差で足りない部分があったと思います。どのポジションが勝っているからといって試合に勝てるわけではないので、チームとしてもつとまとまってプレイの精度を上げていれば、アメリカに勝てていたかもしれません。

(オールトーナメント選出について)全然選ばれると思っていなかったのですけど、個人的に他国に対してやれている部分もあって自信も持っていました。(オールトーナメント受賞は)今後の励みにしていきたいです。

日本代表 DL 富田 祥太(オービックシーガルズ)

(タッチダウンについて)個人的に初めてのタッチダウンだったので記念に残ったのですが、悔しい結果だったので4年後の糧にしたいです。

■主なスタッツ

得点経過				
1st	08:42	USA	0-8 D.Guthrie 75yd interception return (L.Meacham pass from K.Burke)	
	00:32	USA	0-16 K.Burke 2yd run (N.Griffin rush)	
2nd	07:47	USA	0-24 A.Wimberly 18yd run (N.Griffin rush)	
	05:50	USA	0-31 K.Olugbode 36yd fumble recovery (E.Ruhnke kick)	
	02:56	JPN	6-31 宜本 潤平 25yd pass from 加藤翔平(加藤翔平 pass failed)	
	00:12	USA	6-38 E.Brun 1yd pass from D.Favre (E.Ruhnke kick)	
3rd	07:29	JPN	12-38 富田祥太 0yd fumble recovery (高田鉄男 pass failed)	
	07:00	USA	12-45 T.Steelman 36yd run (E.Ruhnke kick)	
4th	08:03	USA	12-52 A.Gross 0yd fumble recovery (E.Ruhnke kick)	
	03:15	USA	12-59 D.Favre 9yd Run (E.Ruhnke kick)	

日本	チーム成績	アメリカ
218	オフェンス総獲得ヤード数	413
225	パス総獲得ヤード数	208
-7	ラン総獲得ヤード数	205
12	ファーストダウン回数	20
4-40	ペナルティ回数—喪失ヤード数	7-59
※24:20	ボール支配時間	※22:05

日本 主な個人成績					
選手名	パス成功／回	獲得ヤード	TD	インターチェプト	被サック
加藤 翔平 (LIXIL)	12/22	141	1	1	1
高田 鉄男 (パナソニック)	11/19	84	0	0	4
選手名	ラン回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
高木 棲 (IBM)	7	25	0	3.5	11
古谷 拓也 (オービック)	2	0	0	0.0	2
選手名	レシーブ回数	獲得ヤード	TD	1回平均	最長
栗原 嵩 (IBM)	6	85	0	14.1	26
前田 直輝 (LIXIL)	5	40	0	8.0	14
木下 典明 (オービック)	4	52	0	13.0	33
宜本 潤平 (富士通)	3	31	1	10.3	25
選手名	タックル数	サック数	ロスタックル	インターチェプト	
今西 亮平 (パナソニック)	7.0	0	0	0	
藤田 篤 (富士通)	7.0	0	0	0	
塚田 昌克 (オービック)	5.0	1	0	0	
竹内 修平 (富士通)	5.0	0	0	0	



〈左上〉
キックオフリターンで活躍を見せた、WR 栗原
(IBM)
〈上〉
リーディングタックラーとなった DB 藤田（富
士通）

〈下〉
準優勝杯を受け取る主将木下（オービック）
左は金氏 真 IFAF 上級副会長



【第5回アメリカンフットボール世界選手権】

最優秀選手・最優秀コーチ、および大会選抜チーム選手

■ MVP:

WR 13 Trent Steelman, USA

■ Coach of the tournament:

Dan Hawkins, USA

◇All-Tournament Team First Team

Pos	Country	No.	Name
-----	---------	-----	------

QB	USA	10	Kevin Burke
RB	USA	28	Aaron Wimberly
RB	FRA	23	Stephan Yepmo
WR	USA	13	Trent Steelman
WR	JPN	81	Takashi I Kurihara
WR	AUS	11	Daniel Strickland
TE	USA	84	Ernst Brun
OL	AUS	60	Aaron Carbury
OL	USA	79	James Atoe
OL	FRA	79	Olivier Bourdin
OL	JPN	79	Akira Katsuyama
K	MEX	19	Jose Maltos
KR	FRA	8	Anthony Dable
DL	FRA	92	Robin Mouton
DL	AUS	91	Alan Steinohrt
DL	USA	36	Jack Sherlock
LB	USA	50	Steve Kurfehs
LB	USA	7	David Guthrie
LB	USA	34	Alex Gross
LB	MEX	52	Daniel Carette
DB	BRA	14	Igor Mota
DB	AUS	22	Damien Donaldson
DB	USA	20	Robert Virgil
DB	JPN	25	Keizaburo Isagawa

◇ All-Tournament Team Second Team

Pos	Country	No.	Name
QB	JPN	10	Shohei Kato
RB	USA	6	Sadale Foster
RB	JPN	21	Ryo Takagi
WR	JPN	11	Naoki Maeda
WR	MEX	18	Raul San Roman
WR	BRA	9	Rodrigo Pons
TE	JPN	88	Takahiro Haruta
OL	JPN	72	Yutaro Kobayashi
OL	KOR	75	Seung Jun Oh
OL	USA	78	Abasi Salimu
OL	AUS	72	James Gifford
K	JPN	26	Shintaro Saeki
KR	USA	1	Bryan Douglas
	MEX	93	Octavio Gonzalez
DL	USA	92	Alec May
DL	AUS	92	Carlisle Jones
DL	FRA	1	Giovanni Nanguy
LB	BRA	59	Gerson Santos
LB	JPN	17	Kensuke Amaya
LB	AUS	24	Ryan Ottens
LB	MEX	56	Manuel Padilla
DB	USA	2	Mike Edwards
DB	AUS	6	Damien Molloy
DB	FRA	3	Arnaud Vidaller

第5回世界選手権 日本代表選手(45名)

年齢は大会開幕日(7月8日)現在

POS	#	名前	ふりがな	所属	出身校	身長	体重	年齢	
WR	1	宜本 潤平	よしもと じゅんpei	富士通フロンティアーズ	立命館大学	169	70	24	
DB	2	東條 健人	とうじょう けんと	オービックシーガルズ	立命館大学	174	74	23	
DB	3	石井 悠貴	いしい ゆうき	富士通フロンティアーズ	立命館大学	174	75	23	
DL	4	平澤 徹	ひらさわ とおる	LIXILディアーズ	関西学院大学	179	92	26	
LB	5	塚田 昌克	つかだ まさよし	オービックシーガルズ	立命館大学	175	88	32	
RB	6	神山 幸祐	かみやま こうすけ	富士通フロンティアーズ	日本大学	171	80	28	
DB	7	藤田 篤	ふじた あつし	富士通フロンティアーズ	日本体育大学	179	80	29	
QB	8	高田 鉄男	たかた てつお	パナソニックインパルス	立命館大学	180	90	33	
WR	9	遠藤 昇馬	えんどう しょうま	パナソニックインパルス	日本大学	180	88	24	
QB	10	加藤 翔平	かとう しょうへい	LIXILディアーズ	関西学院大学	183	85	27	
WR	11	前田 直輝	まえだ なおき	LIXILディアーズ	立命館大学	173	91	29	
DB	12	今西 亮平	いまにし りょうへい	パナソニックインパルス	立命館大学	171	84	28	
DL	13	平井 基之	ひらい もとゆき	富士通フロンティアーズ	立命館大学	182	99	33	
DB	14	藤本 将司	ふじもと まさし	オービックシーガルズ	立命館大学	175	77	30	
WR	15	宮本 康弘	みやもと やすひろ	LIXILディアーズ	法政大学	183	85	26	
DB	16	三宅 剛司	みやけ たけし	オービックシーガルズ	立命館大学	182	78	31	
LB	17	天谷 謙介	あまや けんすけ	LIXILディアーズ	日本大学	177	92	25	
◎	WR	18	木下 典明	きのした のりあき	オービックシーガルズ	立命館大学	177	80	32
WR	19	永川 勝也	ながかわ かつや	LIXILディアーズ	関西大学	173	75	28	
RB	20	古谷 拓也	ふるたに たくや	オービックシーガルズ	関西大学	173	78	38	
RB	21	高木 稜	たかぎ りょう	IBMビッグブルー	京都大学	166	74	25	
DL	24	飾磨 宗和	しかま むねかず	パナソニックインパルス	立命館大学	178	105	33	
DB	25	砂川 敬三郎	いさがわ けいざぶろう	オービックシーガルズ	関西大学	170	77	24	
K/P	26	佐伯 真太郎	さえき しんたろう	パナソニックインパルス	立命館大学	180	80	23	
DB	27	辻 篤志	つじ あつし	パナソニックインパルス	大阪産業大学	174	84	28	
RB	29	李 卓	り たく	慶應義塾大学	南山高校	182	86	20	
LB	35	竹内 修平	たけうち しゅうへい	富士通フロンティアーズ	日本福祉大学	183	93	26	
○	DL	43	脇坂 康生	わきさか やすお	パナソニックインパルス	日本大学	182	115	46
○	LB	45	鈴木 將一郎	すずき しょいちろう	富士通フロンティアーズ	専修大学	180	90	35
DL	54	富田 祥太	とみた しょうた	オービックシーガルズ	日本大学	180	123	26	
OL	57	斎田 哲也	さいた てつや	富士通フロンティアーズ	法政大学	188	120	26	
OL	59	山本 祐介	やまもと ゆうすけ	オービックシーガルズ	北海学園大学	186	126	29	
OL	66	望月 俊	もちづき しゅん	富士通フロンティアーズ	早稲田大学	180	120	26	
○	OL	72	小林 祐太郎	こばやし ゆうたろう	富士通フロンティアーズ	日本大学	190	115	27
OL	75	黒川 晴央	くろかわ はるひさ	アサヒ飲料チャレンジャーズ	名城大学	190	127	26	
OL	77	野田 健仁	のだ たけひと	アサヒ飲料チャレンジャーズ	大阪府立大学	193	142	29	
OL	78	荒井 航平	あらい こうへい	LIXILディアーズ	日本大学	188	140	25	
OL	79	勝山 晃	かつやま あきら	富士通フロンティアーズ	法政大学	186	123	25	
WR	81	栗原 嵩	くりはら たかし	IBMビッグブルー	法政大学	180	85	27	
WR	83	林 雄太	はやし ゆうた	アサヒビールシルバースター	日本大学	186	88	24	
TE	88	春田 崇博	はるた たかひろ	富士通フロンティアーズ	大阪産業大学	182	95	30	
DL	90	清家 拓也	せいけ たくや	オービックシーガルズ	関西大学	178	140	24	
DL	92	紀平 充則	きひら みつのり	無所属	立命館大学	183	125	32	
LB	96	澤田 遙	さわだ よう	オービックシーガルズ	関西大学	182	104	23	
DL	99	高橋 伶太	たかはし りょうた	富士通フロンティアーズ	立命館大学	185	105	24	

◎主将 ○副将

コーチ、スタッフ(19名)

POS	名前	ふりがな	所属チーム
ヘッドコーチ	森 清之	もり きよゆき	LIXILディアーズ
守備コーディネータ	大橋 誠	おおはし まこと	オービックシーガルズ
攻撃コーディネータ/RB・TE担当	富永 一	とみなが はじめ	LIXILディアーズ
スペシャルチームコーディネータ/DB担当	延原 典和	のぶはら のりかず	富士通フロンティアーズ
アシスタントヘッドコーチ/攻撃アシスタント	河田 剛	かわた つよし	スタンフォード大学
コーチ(OL担当)	昌原 史卓	まさはら ふみたか	IBMピックブルー
コーチ(QB担当)	有馬 隼人	ありま はやと	アサヒビールシルバースター
コーチ(WR担当)	長谷川 昌泳	はせがわ しょうえい	日本大学フェニックス
コーチ(DL担当)	山中 正喜	やまなか まさよし	パナソニックインパルス
コーチ(LB担当)	有澤 玄	ありさわ げん	LIXILディアーズ
ドクター	反町 武史	そりまち たけし	立教大学、明理会中央総合病院
アスレティックトレーナー	大隈 重信	おおくま しげのぶ	富士通フロンティアーズ
アスレティックトレーナー	吉永 孝徳	よしなが たかのり	オービックシーガルズ
アスレティックトレーナー	倉知 良博	くらち よしひろ	オービックシーガルズ
マネージャー	眞中 久仁枝	まなか くにえ	LIXILディアーズ
マネージャー	中村 友美	なかむら ゆみ	IBMピックブルー
マネージャー	西川 真理緒	にしかわ まりを	アサヒビールシルバースター
ビデオスタッフ	田中 美久	たなか みく	富士通フロンティアーズ
CDM	山田 晋三	やまだ しんぞう	日本アメリカンフットボール協会

■第5回 アメリカンフットボール世界選手権大会 大会概要

名称 第5回 IFAF アメリカンフットボール 世界選手権アメリカ大会
The IFAF World Championship 2015

主催 IFAF [International Federation of American Football] (国際アメリカンフットボール連盟)

主管 USA Football

期間 2015年7月8日（水）～7月18日（土）

開催地 アメリカ合衆国 オハイオ州 キャントン

【試合会場】 Tom Benson Hall of Fame Stadium (収容 22,375名)
Earl Schreiber Cir NW,Canton,OH 44708

出場国 7カ国

グループA：アメリカ、日本、メキシコ、カナダ（欠場）

グループB：フランス、オーストラリア、韓国、ブラジル、

対戦方式 上位ランク4チーム【グループA】、下位ランク4チーム【グループB】に分かれ、それぞれ2試合のトーナメント戦を行う。

【グループA】の全敗と【グループB】の全勝を入れ替え、上位4チーム、下位4チームを再構成。それぞれ4チームでトーナメント戦を行い、最終順位を決定する

※カナダ代表の欠場により、カナダ代表と対戦を予定されたチームがそれぞれ不戦勝となる

8 チーム編成 選手45名

9 試合形式 NCAAルール 12分/Q 計時

10 日本代表チーム編成

- (1) 主管 日本アメリカンフットボール協会(JAFA:Japan American Football Association)
- (2) 協力 日本社会人アメリカンフットボール協会
日本学生アメリカンフットボール協会

日本代表 チーム概要



主管 公益社団法人 日本アメリカンフットボール協会

協力 日本社会人アメリカンフットボール協会、日本学生アメリカンフットボール協会、

遠征日程 【遠征出発】7月7日(火)～【遠征帰国】7月20日(祝・月)
出国便(デルタ航空)

7月7日(火) 16:25 成田空港発 DL276 便
7月7日(火) 15:15 デトロイト空港着

帰国便(デルタ航空)

7月19日(日) 13:55 デトロイト空港発 DL275 便
7月20日(祝・月) 15:45 成田空港着

チームスタッフ以外の遠征者

浅田 豊久 (日本協会会長)
金氏 真 (日本協会専務理事、世界連盟上級副会長)
渡部 滋之(日本協会理事、世界連盟競技委員長)
尾川 清 (チーム広報:株式会社タッチダウン)
一野 洋 (チーム広報:インターナショナルスポーツマーケティング株式会社)

■関連ウェブサイト

◇大会公式サイト <http://ifafworldchampionship.org/>

◇日本代表公式サイト <http://japan.americanfootball.jp/>

◇USA Football <http://usafootball.com/>

◇IFAF <http://ifaf.org/>